

平成 20、21 年度 中期目標の達成状況報告書

平成 22 年 6 月
名古屋大学

目 次

I. 中期目標の達成状況

- 1 教育に関する目標の達成状況 1
- 2 研究に関する目標の達成状況 6
- 3 社会との連携、国際交流等に関する目標の達成状況 8

II. 「改善を要する点」についての改善状況 12

I. 中期目標の達成状況

1 教育に関する目標の達成状況

中項目	1 教育の成果に関する目標
-----	---------------

小項目番号	小項目 1	小項目	M1 質の高い教養教育と専門教育を教授し、国際的に評価される教育成果の達成を目指す。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の 中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。
計画 1－1	K1 全学教育体制の強化策を講ずるとともに、教養教育院の整備拡充を図る。 K2 全学教育、学部、大学院の間における教育内容の一貫性の向上を図る。		中長期的にみて英語力の向上が課題であるとの認識のもと、全学教育委員会で議論を重ね、入学者の英語力の底上げを目指して英語教育改革を実行した。(別添資料 1－1－1, p1) 実施組織として教養教育院に「Academic English 支援室」を設置した。まず入学時に TOEFL-ITP 試験及び Criterion 試験を全員に受験させ、この結果に基づき、1 年前期に習熟度別クラス編成をし、英語力に応じてパラグラフ・リーディング、パラグラフ・ライティング、プレゼンテーションの授業を実施した。また、全学生に e-Learning 教材を用いた課外学習を課し、学習量を増加させた。1 年次終了時にも再度 TOEFL-ITP 試験及び Criterion 試験を受験させ、入学時の成績と比較したところ、総体的に確実な底上げが確認できている。(別添資料 1－1－2, p2) 学生のモチベーションをさらに高めるため、特に能力向上の著しい学生 4 名を総長が表彰した。

中項目	2 教育内容等に関する目標		
-----	---------------	--	--

小項目番号	小項目 1	小項目	M2 優れた資質を持つ学生を集めるために、学生の受入方針を明示し、それに合致した適切な入学者選抜方法を工夫する。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

小項目番号	小項目 2	小項目	M3 魅力ある独自の教育プログラムを提供し、優れた人材の育成を図る。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

小項目番号	小項目 3	小項目	M4 国際的に通用する教育プログラムの開発を促進し、その支援策を講ずる。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

中項目	3 教育の実施体制等に関する目標		
-----	------------------	--	--

小項目番号	小項目 1	小項目	M5 教育業績を重視した人材採用を推進するとともに、大学全体の教育実施体制の強化を図る。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

小項目番号	小項目 2	小項目	M6 教育の内容及び方法に関する評価を実施し、その質と水準の向上を図る。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の 中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。
計画 2 - 1	K20 世界最高水準にある協定大学と相互に教育方法等に関する情報を交換し、教育改善を図る。 K21 教授法と技術の向上に必要なFD活動を推進する。		大学間連携によるFD・SDの充実を目指した名古屋市山手地区の国私立4大学（名古屋大学、中京大学、南山大学、名城大学）によるコンソーシアム形成事業を開始し、以下の取組を実施した。 ①授業改善のためのセミナー・ワークショップの開催（別添資料1-3-2,p3） ②「大学教育改革フォーラム in 東海」の開催（別添資料1-3-1,p2） ③哲学教育研究会（別添資料1-3-3,p3）、経済学教育研究会の立ち上げ ④FD地域ネットワークの役割に関するセミナーの実施（マサチューセッツ大学・大学教育センター長を招聘）（別添資料1-3-4,p3） ⑤教務事務担当者実務研修の実施（別添資料1-3-5,p3） ⑥FDプログラム開発・実施のための基礎データ収集 ⑦POD Network in Higher Education 年次大会へ教職員を派遣（別添資料1-3-6,p3） 以上の取り組みの結果、近接する4大学の連携のもと教職員の能力向上のため協力する体制を整備し、また、中部地域の各大学が抱えるFD・SDに関する多様なニーズを把握し、相互に支援できるネットワークの構築へ向け基盤形成を進めることができた。

小項目番号	小項目 3	小項目	M7 教育支援の設備を充実し、教育学習支援機能の向上を図る。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
計画 3 - 1	K25 教育学習に必要な資料・情報の収集・提供に努めるとともに、電子図書館的機能およびネットワークを高度化し、情報アクセス環境の整備を図り、教育学習支援機能を充実する。		附属図書館内に「ラーニング・コモンズ」を設置し、多様な学生のニーズに対応できる学習教育支援環境を整備した。「ラーニング・コモンズ」は、グループラーニングエリア、多目的ラーニングエリア、ライティング・サポートエリア等から構成され、全フロアで無線LANが利用できる。(別添資料 1 - 3 - 7, p3) 学生が個々に、または複数で協調して行う自主学習を高い次元で実現するため、自律的な学習と自由闊達な学習コミュニティを促進する環境設備として、自主学習室「エース・ラボ」を設置した。「エース・ラボN」では、自主学習を強化する環境を主に提供するため、集中的かつ効率的な学習を支援するデスクトップ型端末で構成した。「エース・ラボS」では、協調学習を重視する環境を主に提供するため、移動が容易なノート型端末により構成し、さらに、学習目的に応じて机を機能的に再配置するフリーレイアウト方式を採用し、創発的な学習コミュニティの形成を支援する設備や機器を導入した。(別添資料 1 - 3 - 8, p4)

小項目番号	小項目 4	小項目	M8 情報技術を活用した e-Learning の教授・学習の環境整備を促進する。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
計画 4 - 1	K26 在学生の自主的学習を促進するe-Learningの教授・学習システムを創設するとともに、e-Learningに関する研修制度を確立する。		全学教育の物理学実験予習用 e-Learning 動画教材を作成し、実験授業時間の延長を減らすことができた。(別添資料 1 - 3 - 9 ~ 1 - 3 - 11, p4) 英語新カリキュラムの開始に伴い、英語圏の大学での講義の受講に必要な基本スキル養成用の上級者用 e-Learning 教材「eFACE」を開発した。文系理系双方より学生の知的関心に合うようにテキストを自作し、リーディングとプレゼンテーションのスキルを磨くことを目指している。特に、文章の流れを把握しその次にくる文章を予測する Reconstruction、耳で聞くと同時に自分も同じ速さ・イントネーション・アクセントで発話する Shadowing の反復練習を特徴としている。(別添資料 1 - 3 - 12, p5) この他、医学系研究科では「がんプロフェッショナル養成プラン」事業で、各種 e-Learning コンテンツを大学院学生および実習生に提供した。(別添資料 1 - 3 - 13, p5) e-Learning によるリメディアル教材、TOEIC 対策教材、就職活動支援教材を提供した。

中項目	4 学生への支援に関する目標
-----	----------------

小項目番号	小項目 1	小項目	M9 学生の学習に対するサービスを充実し、その支援環境を整備するとともに、学生生活に対する援助、助言、指導の体制の充実を図る。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
計画 1 - 1	K27 多様な学生のニーズを尊重した学習・進学・就職支援のサービスを充実させる。	K28 学生に対する心身両面のケアを行う体制を強化する。	K29 優れた課外活動の実践を支援する環境整備を行う。 全学教育委員会、学生生活委員会等の検討から、学生への良好な生活環境の提供、アメニティの確保が極めて重要と判断し、平成 18 年度の第 2 理科系食堂の改修に続き、1・2 年次の学生が主に利用する学内最大の南部食堂を全面増改築して、平成 22 年度からの利用準備を整えた。(別添資料 1-4-1, p6) また、医学部食堂、工学部 7 号館食堂も改修し、全学的に従来の学食のイメージを一新した。また、国際化拠点整備事業(通称グローバル 30)の採択を受け、キャンパスに近い山手地区に国際交流会館「インターナショナルレジデンス山手」を新築して、急増が見込まれる留学生の収容能力拡大を実現した。(別添資料 1-4-2, p6) 課外活動用には、①陸上競技場トラックの全天候化、(別添資料 1-4-3, p6) ②総合運動場複合棟の新築、③武道・柔道場の整備、④軟式テニスコートの全天候化、⑤屋内プール棟の改修、⑥野球場グラウンドおよびダッグアウトの整備、⑦第 1 体育館の安全対策などを実施し、安全で快適な活動を可能にした。

2 研究に関する目標の達成状況

中項目	1 研究の水準、成果、実施体制等に関する目標
-----	------------------------

小項目番号	小項目 1	小項目	M10 人文・社会・自然の各分野で国際的及び全国的な水準で研究活動を行っている研究者を確保し、世界最高水準の学術研究を推進する。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の 中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。
計画 1 - 2	K31 人文・社会・自然の各分野で基礎的・萌芽的研究の進展を図る。 K32 社会的要請の高い先進的・学際的な重点領域分野の研究を推進する。		平成 20 年度に、本学卒業・修了生の益川敏英、小林誠の両氏がノーベル物理学賞を、本学で博士学位を取得し、元助教授の下村脩氏がノーベル化学賞を受賞した。3 氏を講師として招き、名古屋大学レクチャーを 2 回開催した。(別添資料 2-1-1, p7) 平成 21 年度には、経済学研究科の安藤隆穂教授が学士院賞を受賞する栄誉に浴した。(別添資料 2-1-2, p7) これらの受賞は、中期目標期間をはるかに超える長い研究の積み重ねの結果、その質の高い学術研究成果が内外の学術界から評価されたものである。 「グローバル COE プログラム」に、平成 19 年度の 3 件に続き、新たに 4 件(医学分野 1 件、数学・物理学・地球科学分野 1 件、機械・土木・建築・その他工学分野 1 件、学際・複合・新領域分野 1 件)が採択され、活発に教育研究活動を展開している。(資料 B2-2010 入力データ集:No. 6-3 競争的外部資金, 別添資料 2-1-3, p7)

小項目番号	小項目 2	小項目	M11 優れた研究成果を挙げ、それを社会に広く還元する。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

小項目番号	小項目 3	小項目	M12 人文・社会・自然の各分野の次世代を担う若手研究者を育成する。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

小項目番号	小項目 4	小項目	M13 高度な学術研究の成果を挙げるための組織と環境を整備する。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

小項目番号	小項目 5	小項目	M14 研究の質の向上のために、研究成果に対する評価システムの改善を図る。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
計画 5 - 1	K44 研究成果に対する客観的な評価を行うことができる全学的な評価体制を確立する。 K45 評価企画室等を活用して、研究活動の成果を収集・分析するシステムを整備する。		平成 19 年度に計画・評価委員会の下に科学研究費補助金 10 専門分野に対応する部局の枠を超えた作業部会を設置した。平成 20 年度に同作業部会で各分野の基準を定め、提出された平成 16～19 年度の個々の業績についてピアレビューを行った。その結果を持ち寄って集中的に議論を重ね、研究成果を客観的かつ厳密に評価して、優れた研究業績 (SS・S) を選定した。その結果、「卓越した研究業績 (SS)」に関して、自己評価結果と、平成 21 年度に通知された大学評価・学位授与機構による評価結果との乖離はほとんど無く、本学の自己評価能力の確かさが示された。このように確立された研究評価体制の下、平成 20～21 年度の優れた研究業績の選定も、平成 16～19 年度分と同様の選定基準とピアレビューに基づく作業部会方式で臨んだ。

小項目番号	小項目 6	小項目	M15 国際水準の研究を維持し発展させる分野に対して、重点的な資源投資を行う。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

小項目番号	小項目 7	小項目	M16 国、地方公共団体、産業界、民間団体等から多様な研究資金を確保する。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

小項目番号	小項目 8	小項目	M17 研究成果としての知的財産を創出、取得、管理及び活用する機構を充実し、知的財産の社会還元を図る。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

3 社会との連携、国際交流等に関する目標の達成状況

中項目	1 社会との連携に関する目標
-----	----------------

小項目番号	小項目 1	小項目	M18 全学施設の公開を促進し、知的活動による成果の有効活用を図るとともに、地域諸機関と連携して地域文化の向上に貢献する。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
計画 1 - 1	K53 附属図書館、博物館等の学内施設の公開を進め、地域サービスを充実する。 K54 地域文化の振興を図るための公開講座、講演会を増やす。 K55 地方自治体と連携した文化事業を充実する。		博物館は、平成 20 年度改修を契機として、常設展示・企画展等に加えて以下の取組を実施した。 ①ノーベル賞受賞記念特別展（別添資料 3 - 1 - 1, p8） ②名古屋市科学館と連携した「地球教室」等の次世代教育プログラム（別添資料 3 - 1 - 2, p8） ③名古屋市交通局と連携した「駅ちかウォーキング」（平成 20 年は約 1,700 名、平成 21 年は約 2,800 名が参加） ④「名古屋大学におけるノーベル賞研究」展示の新設（別添資料 3 - 1 - 3, p8） ⑤名古屋市東山動植物園と連携したミニワークショップ ⑥博物館コンサート（2 年間で 12 回）（別添資料 3 - 1 - 4, p8） その結果、平成 21 年度には年間来場者数が 23,000 名を超え、改修前の年間 11,000 名から倍増した。（別添資料 3 - 1 - 5, p8） 附属図書館は、相互利用協定によるサービス等、公共図書館と大学図書館との連携協力事業を進める「東海地区図書館協議会」（事務局：本学附属図書館）の加盟館数を 2 年間で 5 館増やし、地域サービスの充実に貢献した。また「図書館友の会」を支援して、「トークサロン・ふみよむゆふべ」を 10 回開催し、市民と交流した。（別添資料 3 - 1 - 6, p8）

小項目番号	小項目 2	小項目	M19 地域の活性化と発展に対して貢献できる産学官のパートナーシップ・プログラムを開発し、促進する。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

小項目番号	小項目 3	小項目	M20 地域の産業の発展に役立つ教育プログラム及び研究プロジェクトを開発する。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

小項目番号	小項目 4	小項目	M21 地域の教育の質の向上に対して、大学の知的活動による成果の活用と提供を推進する。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

小項目番号	小項目 5	小項目	M22 社会連携を推進するために学内の組織体制及び同窓会の強化を図る。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の 中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。
計画 5－2	K68 全学並びに部局同窓会の強化を図り、同窓会を媒介とした社会との連携を進める。		全学同窓会カンボジア支部、モンゴル支部およびウズベキスタン支部の設立を支援し、海外支部を計 9 支部とした。(別添資料 3－1－7, p9) 全学同窓会の協力を得て、第 4 回、第 5 回「名古屋大学ホームカミングデイ」を開催し、それぞれ 4,000 名を超える来場者を得た。(別添資料 3－1－8, p9) 全学同窓会の協力を得て、創立 70 周年記念事業として、以下を実施した。 ①創立 70 周年記念式典、記念フォーラム、祝賀会を開催し、同窓生等関係者約 1,000 名が出席した。(別添資料 3－1－9, p9) ②写真集「知と創造の拠点名古屋大学の歴史創立 70 周年（創基 138 周年）」を刊行した。 ③第 5 回「名古屋大学ホームカミングデイ」の開催に合わせ、名古屋フィルハーモニー交響楽団コンサートを開催した。(別添資料 3－1－9, p9) ④創立 70 周年記念展示および特別講演を開催した。

中項目	2 国際交流に関する目標		
-----	--------------	--	--

小項目番号	小項目 1	小項目	M23 国際社会及び地域社会に開かれた国際協力・交流の全学拠点を形成し、関連の事業活動を組織する。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

小項目番号	小項目 2	小項目	M24 国際化時代をリードする国際共同研究・国際協力を促進する。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

小項目番号	小項目 3	小項目	M25 留学生・外国人研究者の受入れと派遣に対して、相談・助言のサービスに責任を持つ全学的拠点を組織し強化する。
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
計画 3－1	K77 優秀な留学生を受入れ、また外国の大学に派遣する本学学生を増やすための支援体制を整備する。 K78 AC21 加盟校との連携等によって、名古屋大学への留学希望者に対する海外への広報体制を整備する。 K79 国内外の学生と教職員との交流を深めるために、国際フォーラム等を定期的開催する。		平成 21 年度に、国際化拠点整備事業（通称グローバル 30）に採択された。これを受け、全学的な準備体制を構築した。担当副総長を議長とする実務的な全学意見交換会を頻繁に開催し、英語による学位取得プログラム（国際プログラム群）の学生募集活動、入学者選抜、教養教育、奨学制度、外国人教員の採用など、様々な問題について議論し、順次決定している。同プログラム群には、学部レベルに化学系、物理系、生物系、自動車工学、国際社会科学の 5 つ、大学院レベルには、博士課程前期 5 つ、後期 4 つのプログラムを置くことにし、平成 23 年度秋季入学からのスタートに向けて、プログラムごとに分科会を設けてカリキュラムを構築した。主に学生募集、入学者選抜に対応するため、米国における活動経験豊富な特任教授、また、カリキュラム開発に対応するため米国の大学での教育経験豊富な特任教授等を雇用し、それぞれの専門性を活かして中心的な役割を担わせた。（別添資料 3－2－1, p10）

中項目	3 学術情報基盤に関する目標
-----	----------------

小項目番号	小項目 1	小項目	M36 教育及び研究の支援を行うために、高度情報技術を活用した全学共通の学術情報基盤の整備を進める。
計画番号	中期計画	平成 20 年度及び 21 年度における実施状況	
全中期計画		平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。	

Ⅱ. 「改善を要する点」についての改善状況

改善を要する点	改 善 状 況
該当無し	